**15 『古本説話集』**

今は昔といふ歌みども、いみじうみはして詠みけり。長能は、①の日記したる人の、伝はりたる歌詠み、道済といひし歌詠みの孫にて、②いみじく挑み交はしたるに、りの歌を、二人詠みけるに、長能、

Ａ　あられ降ののかりぬれぬ宿かす人しなければ

道済、

　ぬれぬれもなほ狩りゆかむしたかのの雪をうち払ひつつ

と詠みて、おのおの「我がまさりたり」と論じつつ、条大納言のもとへ二人参りて、判ぜさせたてまつるに、大納言のたまふ、「ともによきにとりて、  
③あられは、宿借るばかりは、いかでれむぞ。ここもとぞ劣りたる。はよし。道済がは、④さ言はれたり。末の世にも、集などにも入りなむ」とありければ、道済、⑤舞ひでてでぬ。長能、物思ひ姿にて、出でにけり。さきざき何事も、長能はを打ちけるに、このはなかりけりとぞ。

語　注

長能＝藤原長能。中古三十六歌仙の一人。

道済＝源道済。中古三十六歌仙の一人。

信明＝源信明。平安中期の歌人。三十六歌仙の一人。

交野＝現在の大阪府市・交野市一帯。平安時代以来、皇室の狩猟地であった。

はしたか＝小型の狩猟用の鷹。

四条大納言＝藤原。平安中期の歌人。諸芸に秀で、「三舟の才」の逸話で知られる。

歌柄＝歌の品格。

問1　傍線部①「蜻蛉の日記したる人」とは、誰のことか、適当なものを次から選べ。（4点）

ア　　　イ　　　ウ

エ　　　オ

〔　　　〕

問2　傍線部②「いみじく挑み交はしたるに」とあるが、この二人が一歩も引かない様子が表れている箇所を、これより後の本文中から二十字以内で抜き出せ。（4点）

〔

〕

問3　次の文はＡの歌に用いられている掛詞についての説明である。空欄ａ～ｆを埋めて、説明を完成させよ。ただし、ａは漢字で表記すること。（4点×6）

　この和歌には、三箇所掛詞が用いられている。まず、「御野」と「」、「狩り衣」と「【ａ】り衣」 。「濡れぬ」には、「濡る」が【ｂ】活用であるため、【ｃ】形と【ｄ】形が同じになることを利用して、「衣が「【ｅ】」という意味と「衣が【ｆ】ための宿」という意味が掛けてある。

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕

ｄ〔　　　　　〕

ｅ〔　　　　　　　　　　　　　　　〕

ｆ〔　　　　　　　　　　　　　　　〕

問4　傍線部③「あられは、宿借るばかりは、いかで濡れむぞ」の意味として適当なものを次から選べ。（6点）

ア　あられならば、宿借りなどせず、濡れてみればよかったのに。

イ　宿借りしたからには、たとえあられが降っても濡れることはない。

ウ　宿借りするほどとは、あられにどれほど濡れたことであろう。

エ　宿借りすればよいのに、どうして濡れてまで鷹狩りをしたのか。

オ　あられというものは、宿借りするほどに濡れるものではない

〔　　　〕

問5　傍線部④「さ言はれたり」の意味として適当なものを次から選べ。（6点）

ア　劣っていると言われている。

イ　道理に合った表現がされている。

ウ　同じくらい優れていると言える。

エ　同じ欠点があると言える。

オ　後世に残ると言える。

〔　　　〕

問6　傍線部⑤「舞ひ奏でて出でぬ」とはどういう様子を表したものか、簡潔に説明せよ。（6点）

〔

〕

練習問題〈古語の意味②〉

次の傍線部の動詞の意味を後から選べ。

①ものにおそはるる心地しておどろきへれば、火も消えにけり。（　　　）

②この世にののしり給ふ光源氏、かかるついでに見奉り給はむや。（　　　）

③命婦はまだもらせ給はざりけるを、あはれに見奉る。（　　　）

④日ごろ月ごろ、しるきことありて、悩みわたるが、おこたりぬるもうれし。（　　　）

⑤沖の白州にすだく浜千鳥のほかは、跡とふものもなかりけり。（　　　）

⑥涼しう面白く心もあくがるるやうなり。（　　　）

⑦いま一声呼ばれていらへんと、念じて寝たるほどに、（　　　）

ア　評判が高い　　イ　治る　　ウ　集まる　　エ　がまんする

オ　うわの空になる　　カ　目をさます　　キ　おやすみになる

【解答】

問1　エ

問2　おのおの「我がまさりたり」と論じつつ（18字）

問3　ａ＝借　ｂ＝下二段　ｃ＝連用　ｄ＝未然（ｃｄは逆でも可）

　　　ｅ＝濡れてしまった　ｆ＝濡れない

問4　オ

問5　イ

問6　自分の歌がライバルの歌より優れていると言われて、大変喜んだ様子。

【練習問題解答+口語訳】

①カ《（魔性の）ものに襲われる心地がして目をさましなさると、火も消えていた。》

②ア《この世の中で評判が高くていらっしゃる光源氏を、このような折に見申し上げよう。》

③キ《命婦はまだおやすみになっていらっしゃらなかったのを、しみじみと見申し上げる。》

④イ《いく日もいく月も、ひどい状態で、患っていたのが、治ったのもうれしい。》

⑤ウ《沖の白い砂の州に集まっている浜千鳥のほかは、行方を尋ねる者もいなかった。》

⑥オ《すがすがしく楽しく心もうわの空になるようである。》

⑦エ《もう一度呼ばれたら返事をしようと、がまんして寝ているうちに、》